



昨年10月の台風第19号により氾濫した秋山川(上野原市)

## 台風や豪雨への備えを

# 水害・土砂災害から 身を守るために

昨年10月、本県に接近した台風第19号は、県内20市町村に特別警報が発表されるほどの大雨による崖崩れなどを引き起こし、東京方面への交通網の遮断や、住宅被害といった大きな影響を県民の生活に及ぼしました。台風などによる水害や土砂災害の危険から生命や財産を守るためには、県民と行政が防災意識を共有し、防災対策に取り組むことが重要です。

## 知って、備えて、早めに逃げる

河川の堤防などの防災施設は、30年から100年に一度しか起こらない強さの大雨に耐えられるように整備されていますが、近年、全国各地でこの想定を上回る規模の大型台風や局地的豪雨による災害が頻発しています。このような、防災施設だけでは防ぎきれない大災害から生命や財産を守るためには、安全な場所へ避難するしか対策はありません。適時適切に避難するためには、日頃から正しい防災情報を知り、災害に備えておく必要があります。大雨などに見舞われたら、「自分は大丈夫」ではなく「自分は危ない」と意識し、そしていざという時には、**ためらわずにすぐ避難してください。**

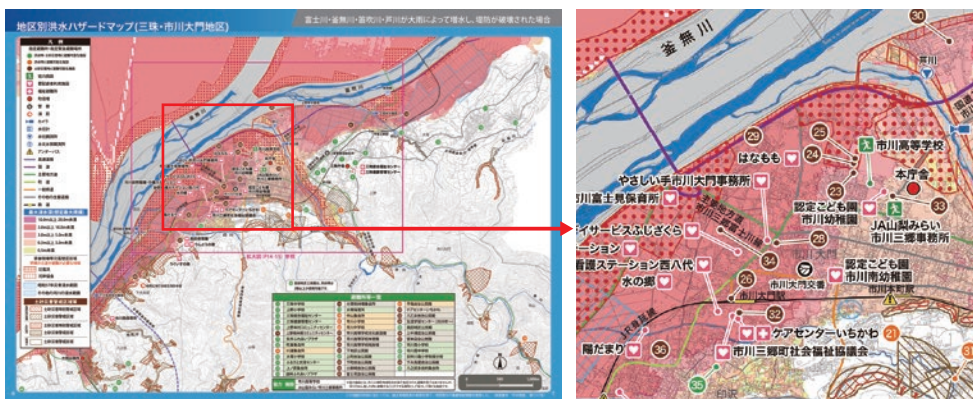
⚠️ 11ページで今すぐ確認を

- 1 自宅がある場所の危険性を知る
- 2 危険を知らせる情報を知る



1

## 自宅がある場所の危険性を知る(ハザードマップ)



市川三郷町の洪水ハザードマップ  
(平成31年3月現在)

ご自身のお住まいの地域のハザードマップを調べてみましょう

[ハザードマップポータルサイト](#)



ハザードマップとは、自然災害による被害の軽減や防災対策に活用するため、氾濫による浸水や土砂の流入などの災害が生じる恐れのある範囲のほか、避難場所や避難経路などを表示した地図(冊子)です。市町村ごとに作成・配付されており、各市町村のウェブサイトで閲覧することができます。また、国土交通省の「ハザードマップポータルサイト」からも検索することができます。

2

## 危険を知らせる情報を知る

### 気象情報

災害が発生する恐れがある場合に気象庁から発表されます。

警戒度と情報の種類	想定される災害の程度
警戒レベル2 注意報	大雨・大雪などにより災害が発生する恐れがある
警戒レベル3 警報	大雨・大雪などにより重大な災害が発生する恐れがある
警戒レベル4 土砂災害警戒情報	命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況にある
警戒レベル5 特別警報	大雨・大雪などにより数十年に一度の大災害が発生する恐れがある

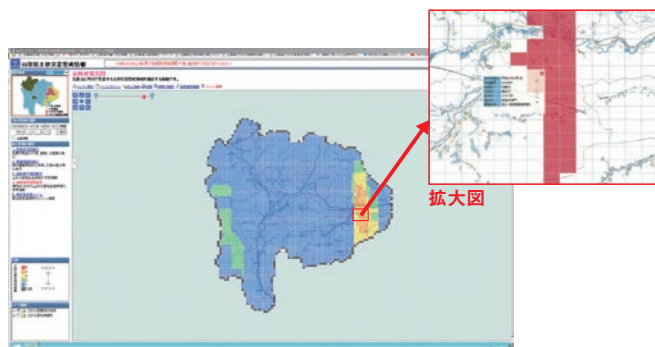
### 避難情報

市町村長が住民に対して発令する最も重要な情報です。危険度の高さによって3段階に分かれています。

警戒度と情報の種類	住民がとるべき行動
警戒レベル3 避難準備情報・ 高齢者等 避難開始	避難に時間が必要な高齢者などの要配慮者は、避難を開始 その他の人は避難の準備を整える
警戒レベル4 避難勧告	予想される災害に対応した指定避難場所などの安全な場所へ、速やかに立ち退き、避難
警戒レベル4 避難指示	安全な場所へ、緊急に避難 避難をすることが危険な場合は、助かる可能性を上げるため、命を守る行動を

### 山梨県土砂災害警戒情報システム

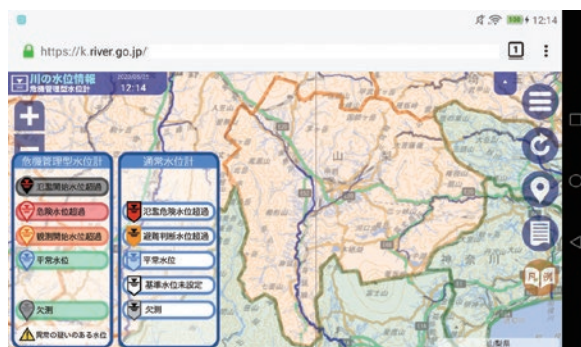
警戒レベル4に相当する「土砂災害警戒情報」の発表状況、土砂災害の危険度(予測および現況)をリアルタイムで提供しています。大雨に見舞われたとき、本システムを確認し、自宅付近の危険度が高くなったら速やかに避難してください。



システムで確認できる危険度現況図の画面

### 川の水位情報

県内の川の水位情報をリアルタイムで提供しています。大雨に見舞われたとき、身近な川が赤色に表示されたら避難の準備をし、市町村からの避難情報などに注意してください。もし、危険を感じたら避難情報にかかわらず、速やかに避難してください。



川の水位情報の画面

# 危険を知らせる情報の活用を

県では、台風などによる水害や土砂災害の危険から県民の生命や財産を守るため、河川改修や土砂災害防止施設の整備、適時適切な避難へ誘導するための情報発信に取り組んでいます。

## 水害や土砂災害が 起こりやすい自然環境

県内には勾配が急な河川が多く、雨が短時間で流れ下り盆地などの平地に集まるため、すぐに付近の河川の水位が上昇します。また、県内の地盤は、多くが火山噴出物で構成されていることや数多く走る断層の影響を受けていることから非常に早く、雨や地震などによる力が働くときすぐに崩れてしまいます。そのため県内では、雨水と土砂が一緒にたまって被害をもたらす災害が多く発生しています。

## 川の安心・安全のために

県では、河川の氾濫などを防ぐため、河川改修をはじめとするさまざまな治水事業を行っています。

例えば、甲府盆地南部を南北に流れる鎌田川では、大雨が降ってもより多くの水を安全に流せるよう、河川を改修して川幅を広げています。河川の改修に当たっては、生態環境

や景観の保全に配慮し、水際に現地の石を並べたり、川底を土のままにしたりしています。

また、濁川に近い学校には、河川の急な増水を防ぐため、降った雨水を一時的に学校のグラウンドのために、水位が落ち着いたところで川へ流す施設を設置しています。

さらに、雑木の伐採や土砂の撤去などの維持管理や、施設を長寿命化する修繕など、安全確保のためのきめ細かな対策も行っています。



治水課 名取 勇磨 技師

## 地形を見極め、対策を選ぶ

県では、さまざまな形で起こる土砂災害に対し、その種類に応じた対策を行っています。

## 河川改修事業

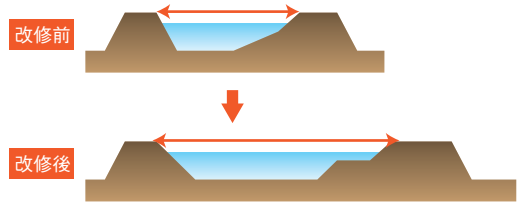


鎌田川(改修前)



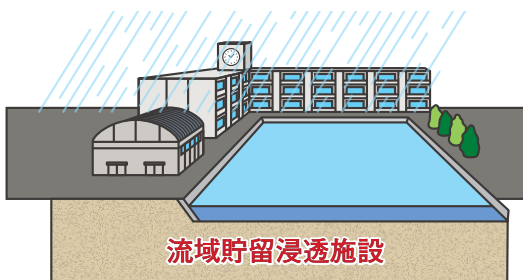
鎌田川(改修後)

川幅を広げ堤防も高くすることでより多くの水を流せるよう、工事を進めています。



## 流域貯留浸透施設

降った雨水を一時的に学校のグラウンドなどにため、河川の急な増水を防ぐための施設を設置しています。



流域貯留浸透施設

## 施設の長寿命化

水門・排水機場などの施設を長期間にわたり適切に使用できるように長寿命化計画を策定し、維持管理を行っています。



水門(修繕前)



水門(修繕後)

【問い合わせ先】水害対策については 治水課 TEL 055-223-1700 FAX 055-223-1704

山梨の河川





台風や豪雨の際に避難の目安となるよう、県では危険を知らせる情報を発信しています。

### 逃げ遅れゼロを目指して



砂防課 東谷 卓 主任

大雨により山や谷で崩れた土砂が水や立木と混じり、麓に向かって流れ下る土石流への対策として、土砂をせき止める砂防堰堤などを設置しています。

また、地層の間にたまった地下水の影響などにより、山全体が広範囲にわたりゆっくりとずり落ちる地滑りには、地中深くにパイプを入れ地下水を排出する抑制工や、滑り出しそうな土の塊をくいなどで止める抑止工による対策を行っています。

急な斜面が一瞬で崩れ落ちる崖崩れ対策には、崩れてきた土砂が人家に飛び込む前に防ぐ擁壁や、落石などを止める防護柵を設置したり、崩れる危険性がより高い斜面をコンクリートなどで固める、のり面工などで保護したりしています。

近年、全国各地で防災施設だけでは防ぎきれないような、想定を超える規模の水害や土砂災害が起きています。このような災害が県内でいつ起っても不思議ではありません。

水害や土砂災害から自分自身や大切なご家族の生命を守るため、もう一度避難に役立つ情報についての確認や、ご家族との話し合いなどをしてください。そして、いざという時にはためらわず、すぐに避難しましょう。

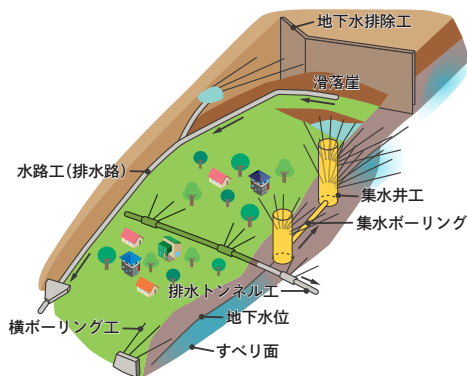
「山梨県土砂災害警戒情報システム」では、スマートフォンのアプリやパソコンなどから、土砂災害警戒情報の発表状況や土砂災害の危険が高まっている地区の水位の現状や土砂災害の危険が高まっている地区については、ウェブサイトのほか、テレビのデータ放送でもお知らせしています。

また、土砂災害警戒情報が発表されると、対象の市町村内にあるスマートフォンや携帯電話へ緊急速報メールが自動的に配信されます。

「山梨県土砂災害警戒情報システム」では、スマートフォンやパソコンなどから、土砂災害警戒情報の発表状況や土砂災害の危険が高まっている地区の水位の現状や土砂災害の危険が高まっている地区については、ウェブサイトのほか、テレビのデータ放送でもお知らせしています。

## 地滑り対策施設

地滑りは主に地下水により発生するため、まず地下水を排水する「抑制工」を実施します。



## 土石流対策施設

砂防堰堤には沢をせき止める「不透過型」と、土石流に含まれる有害な土砂や流木をこし取り水だけを下流へ流す「透過型」があります。

溪流保全工には川底の勾配を緩くし流れの勢いを弱める「床固工」や土砂が削られないようにする「護岸工」などの施設があります。



不透過+透過型堰堤工



溪流保全工

## 崖崩れ対策施設

崖崩れによる土砂が人家に飛び込む前に食い止める「擁壁工」、「防護柵工」や崩れないように対策する「のり面工」などの施設があります。



擁壁工



防護柵工



のり面工